

演習事例の概要

利用事業所及び地域の状況

利用事業所	カナガワB事業所（就労継続支援B型事業） 定員 20 名 ※現在の利用者は精神障害が 6 割、知的障害が 4 割を占める。	
事業所所在地の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・人口 40 万人 交通の便は比較的整っており、最寄駅からバスで 20 分程の場所に立地している。 県内でも企業や店舗が集積している地域であり働く場は多い。ハローワークまでは車で約 10 分の距離である。 ・地域の自立支援協議会に就労支援部会が設置され、少しずつではあるが事業所間の連携ができてきている。 	
地域の社会資源の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市内には障害者就業・生活支援センター、障害者職業センター等、就労支援の主要な機関がある。また、就労移行支援・就労継続支援 A 型・B 型事業所も存在し、障害者雇用も積極的に行われている地域である。 ・同一法人内には就労移行支援事業所、職場適応援助者（ジョブコーチ）の資格を有する職員がおり、必要に応じてジョブコーチ支援を行っている。 ・同一法人に相談支援事業所はないが、市内には障害別に 3 ヶ所ある。 ・同一法人にグループホームはないが、他法人による運営のものが 20 ヶ所存在し、居宅介護事業所も市内に 30 ヶ所ある。 	
地域の地場産業	環境、バイオ、医薬品、IT 関連産業を中心に中小企業が多数存在する。近年は観光資源を活かした産業が発展してきており、街が活性化してきている。	
日課	就労継続支援 B 型事業 ※平日 9:30 ~ 16:00	
主な作業内容	作業内容	工賃の状況
	電化製品下請け作業（検品、箱詰め・梱包、組立）	10,000 円～30,000 円（月）

利用者のプロフィール表

名 前	神奈川 ジロウ
性別・年齢	男性 21歳
身長・体重	169cm、56 kg
生育歴・病歴	<p>県内A市で出生。幼少期は言葉の遅れがみられ、言葉の教室に親子で通っていた。地元の小・中学校の普通級に在籍していたが、勉強の遅れ、また、同級生とのつきあいがうまくいかず、からかいの対象となり、いじめられ学校を休みがちになる。中学校2年生の時、担任教諭と相談し、児童相談所で判定を受けたところ、軽度の知的障害と広汎性発達障害の診断を受けた。さらに担任教諭の勧めにより、精神科を受診し、一時的に安定剤が服用された。</p> <p>その後、特別支援学校に進学、サッカー一部にも所属し友人もできた。学校では、サッカー一部の先生が、困った時に話を聞いてくれるなど、環境にも恵まれ、休むことなく通っていた。本人も「特別支援学校時代が一番楽しかった」と話している。性格は、真面目であるが、自分に嫌なことや自分に不都合なことがあると、避けてしまう傾向がある。またストレスを感じやすく、イライラなどの感情が押さえられず、トラブルになってしまうことがある。</p>
家族構成 家族状況	<p>家族構成 両親・本人・兄 父親58才・母親56歳・兄25歳</p> <p>父親は仕事が忙しくほとんど本人との関わりはないが、たまの休日はドライブなどで接している。母親は自分が中心となってジロウさんを育ててきたこともあり、本人の障害については理解しているが、本人の自立を心配するあまり口うるさいこともある。</p> <p>兄は結婚し県内に在住している。毎月ではないが、何か用事のある時には家族(妻・子ども)で里帰りしている。本人と兄家族の関係は良好であるが、両親は結婚し独立した兄にジロウさんの面倒を見てもらうことはできないと考えている。</p> <p>母親は本人に将来一般企業で働き自立した生活を送ってほしいと考えており、現在の生活を心配している。</p>
相談にいたる 経緯	<p>特別支援学校卒業後、市内の運送会社に就職した。運送会社の仕事では、荷物の仕分け、積み込み作業を行うが、先輩の指示された内容が理解できず度々注意を受けていた。また、日により仕事の予定や手順が変わる環境の中で、誰にも相談できず、精神的にストレスを感じるようになった。</p> <p>就職後、半年が経過したころから遅刻や欠勤が増え、会社と相談しながら約一年間働いたが、会社とも話合った結果退職となった。退職後は、何をしたらよいのかわからず、買い物や年に数回、友人に会う時に外出する程度で自宅にひきこもった生活を送るようになった。会社を退職してから一年半が経過し、この先の本人の生活を心配した母親が市役所に相談したところ、市内の相談支援事業所を紹介された。本人は相談支援事業所の相談員に「自分も彼女を見つけて結婚し、兄のように一人前の男として生活したい」と話している。</p> <p>仕事については意欲もあり「もう一度、働きたい」と話すがまた失敗し、先輩や上司から怒られるのではないかと不安も強く感じられた。</p> <p>このため相談員は、かつて特別支援学校時代に実習した経験のある就労継続支援B型の事業所を紹介し、利用に向けて2週間の実習を行った。</p>

アセスメント参考事項(実習記録)

項目	現 状
住環境	両親と一軒家に居住 兄は結婚し県内に在住しており、毎月ではないが、何か用事のある時には家族(妻・子ども)で里帰りしている。
障害の状況	軽度知的障害(B2) 広汎性発達障害
健康面・身体 の状況	健康面での配慮事項はないが、退職後は自宅で過ごすことが多く、昼夜逆転してしまうこともあり、体力が低下している状況である。
ADLの状況	特別な配慮は必要としないが、身だしなみにだらしないところがあり衣類の乱れ、髭そり、髪の手入れ等、声がけが必要である。
家事	洗濯、掃除は経験がない。 食事作りは、調理実習でした程度で経験は少ない。母親がいない時は、コンビニの弁当や冷凍食品をレンジで温めたり、ポットのお湯でカップ麺を食べたりしている。
趣味	雑誌や漫画、パソコンを使ったゲームやインターネットを利用し、様々な情報を得ることも兄から教わっている。また漫画の「ワンピース」が大好きで、毎週「ワンピース」の掲載されている漫画雑誌を買うことを楽しみにしている。 高校時代は電車に乗り、キャラクターのフィギュアを買いに行くことが好きだった。
コミュニケーション	コミュニケーションや暗黙のルールを理解することが苦手である。 言葉による説明では返事はするが、実際には理解できていないことが多い。 一度に二つ以上の作業指示をしてしまうと混乱してしまうことがある。 自分の意見や考えを伝えるのが苦手である。
金銭管理	障害年金2級を受給。就職していた時は、月に10万円の給与収入があった。 金銭管理は小遣い程度可能である。就職していた頃は、給料を自己管理していた時期もあったが、雑誌やゲーム等に使いすぎてしまうことがあり、結局は母親が管理をするようになった。
社会的マナー 交通ルール等	挨拶は自らできないが、相手から挨拶されれば、丁寧に挨拶することができる。 公共交通機関は利用できる。
福祉サービスの 利用	相談支援事業所を利用しているが、それ以外の福祉サービスの利用はない。
就労	働きたいという思いはあるが、自分に向いている仕事がわからなく、教えてほしいと思っている。また先輩や上司にまた怒られるのではないかと不安があり心配している。
作業について	施設で2週間の実習を終えた結果は検品、箱詰め、梱包作業は、手先が器用なため、スピードは遅いが几帳面に行っていた。パソコンでのデータ入力は本人も好きな作業であり、積極的に取り組んでいた。 対人関係は苦手であり、わからないことがあっても、職員に作業指示を聞くことができずミスがあった。部品の組立て作業は、口頭の指示だけでは順番を間違えることがあったため、職員が作業方法を口頭で指示すると「すみません、すみません」と自分を責めてしまう傾向がみられた。 作業態度は真面目だが疲労から作業ペースが落ち、集中力が低下している様子が見られた。 休憩時間は1人でゲームをして過ごすことが多いが、自分の興味のある話では職員や他の利用者と楽しく会話をすることもあった。
人間関係	特別支援学校時代は、サッカー部でゲームが好きな友人がおり、卒業後は年に数回はサッカー部の仲間と会うなど交流は続いている。初対面は、苦手であるが、特別支援学校のサッカー部の仲間内では、明るく話すことができる。